

いわてシニアの会 会報

創刊号

令和3年6月1日

発行責任者 小野寺 融

編集責任者 志田 満

1. 創刊にあたって（小野寺会長挨拶）

会員の皆様お元気でお過ごしのこととご推察いたします。コロナ感染拡大は1年上の行動制限を引き起こしています。シニアの会としての活動もままならない状態となり、今までの活動基準が対面方式からリモート方式などの方法を模索してゆく必要性に気づかされました。会員相互も疎遠になり唯一相談会の当番者が交流しているばかりでシニアの会の活動が見えませんでした。その反省から会報の発行により、会員皆さんとの情報交換の場を作ることが提案され発行することにしました。会報も有意義に活用し相互の情報交換の場にしましょう。



2. 4月・5月の事業内容及び6月・7月の予定

①相談会実施及び実施予定

4月 4/5（月） 4/8（木） 4/21（水） 4/22（金）

5月 5/6（木） 5/19（水）

6月 6/7（月） 6/10（木） 6/23（水） 6/25（金）

7月 7/5（月） 7/8（木） 7/21（水）

7/23（金）は祝日に変更になりましたので中止とします。

拡大相談会 5/29（土） 上田公民館で開催

7/31（土） 上田公民館で開催予定

内容 令和3年度総会について

⇒新型コロナウイルスの影響が強いので、今年度もメール審議で実施
申請助成金の結果について

定例会（相談会）の5月、6月開催について

当面は高齢者のワクチン接種が完了するまでは、対面方式での事業は見送る

②総会での審議結果 賛成多数で R2 年度活動報告、R3 年度活動方針は可決された。

3. 会員紹介

清水健司さん

サッカーで有名だった山梨県韮崎高校を卒業、化学の先生を目標に岩手大学工学部応用化学化に入学、卒業後は結晶づくりを専門に研究室の運営を、その間には産官学連携のINS（岩手ネットワークシステム）の設立や地域連携推進センターおよ



び大学・工学部の運営それに工学部同窓会一祐会にも関わらせていただきました。退職後は縁あって岩手県の地方創生の定住・交流促進専門員を、この4月から岩手県立産業技術短期大学校（産技短；019-697-9089）の校長を勤めさせていただいています。一重に人づきあいのお陰様と感謝しながら高齢化社会にて72歳ジタバタしている昨今です。これまでどおりお付き合いをよろしくお願い申し上げます。ぜひ産技短にお出かけ下さい。

4. コラム

昨年来の「鬼滅の刃」ブームがあり、「鬼」が脚光を浴びています。あちこちに鬼伝説が存在する我が岩手県もそのブームにあやかりたいと思うし、鬼の霊力によって何とか疫病退散を願いたいものである。さて過日桜が満開を迎えた一関市の「鬼死骸村」を訪ねた。「鬼死骸村」とは、明治8年まで実在した村名で、現在の一関市真柴地区にあたる。この鬼死骸という名前の由来は、坂上田村麻呂が東北遠征の折にこの地区を治めていた大武丸（おおたけまる）という郷士（蝦夷の棟梁）を成敗した際に、大武丸の首をはね、その亡骸を田村麻呂が埋葬し、その上に巨大な岩を置いたとされる逸話に基づいている。当時の蝦夷の人たちは、ひげもじゃで毛皮などを羽織っていたと推察されるため、都人にとっては異様な形相で鬼に見えたのかも知れない。いずれにしても原住民であった蝦夷の民が、当時の朝廷軍に侵略された訳である。また、この大武丸は、阿豆流為（あてるい）もしくはその弟だったのではないかという説もある。また、鎌倉時代に、現在の平泉町の達谷窟に「悪路王」という鬼が住みつき、仲間とともに悪さをしていたという記録があり、その悪路王が大武丸だったという説もある。どちらも歴史ロマンを十分に感じさせます。岩手にはまだまだ知らない歴史ロマンが一杯埋まっているようです。



【鬼死骸停留所待合室】



【鬼石】

5. 新たな会員の募集について

新規会員の紹介をお願い致します。会員増は会員の皆様の人脈だよりです。本会報を使っても構いませんので、お知り合いの方へのお声かけどうかよろしくお願いいたします。

連絡先 事務局 志田満

携帯 090-2791-1803 e-mail mitshida.1029@docomonet.jp

6. 編集後記

事務局の志田です、これからシニアの会会報を充実したものにしていきますので皆さんの忌憚のないご意見をお待ちしております。さて4月7日に開通した国道106号線の自動車専用道路（復興道路）で宮古方面に行ってきました。西根の自宅から山田ICまで丁度2時間で着きました。トンネル続きですが、だいぶ時間短縮ができました。太平洋沿岸への往来がより活発になることに期待大ですね。